地域新聞 みあき 第6号

地域新聞みあき製作委員会
2018年5月1日　発行
連絡先 info.miaki@gmail.com

新年度　新たな船出

（文責）原田　浩明

通常総会の様子

去る3月11日、平成29年度三秋地区通常総会が開催されました。今年は、総代および各組長・副組長以外に、3年に1度の区長改選があり、区長・総代それぞれの選挙が行われました。また、新規加入者の紹介も行われました。

この1年を振り返って

（文責）原田　浩明

平成29年度をもって退任されるにあたり、稲垣区長・三野専務総代・藤井総代にこの1年当新聞製作に携わってきたことについて、以下の4つの質問という形で総括して頂きました。

①この1年間の新聞製作活動で最も印象的だった事は？

他地区の人から活動の取り組みや新聞内容について評価を受けたこと、ホタル観賞会や明神山イチョウ。

②これまでの活動の中で課題だと思うことは？

イベントについて目的の掘り下げをすること。

③今後の地域新聞みあきに期待することは？

これからも活動を継続し、三秋の良いところを見つけ紹介して欲しい。

④住民の皆さんへ一言

地域新聞みあきに関心を持ち、今後も活動に協力して欲しい。

三秋新三役紹介

（文責）原田　浩明

左から稲垣新専務総代、原田新区長、水口新総代

平成30年度の新三役に選出された方をご紹介致します。以下次の形式で記載。

①氏名・役職・年齢・趣味
②新年度の抱負
③地域新聞みあきに期待すること或いは思うこと
④住民の皆さんへ一言

①原田実・新区長・69歳・趣味は魚釣り（近場）と菊作り
②防災意識の高揚を図る（三秋では災害はない！と思っている方が多いのでは？大きな地震、大池の決壊によるる災害など）。少子高齢化の中、子供の親となる年代が三秋に住まない：なぜかをみんなで考えなければならない。果樹園や田畑の耕作放棄地増加は、耕作者に多大な迷惑をかけているのではないか。各組織において検討実行が必要。コミニティ広場、集会所、西願寺等を活用したイベント等を各種団体で考えて地域の活性化を！
③地域新聞みあきは、三秋住民の声が広がる新聞であるから各自の思う事を一声一行で出して広く住民の声を！
④各種イベント、行事、説明会等、「自分には関係ない」と思わず参加して意見を述べて欲しい。安心安全で住みやすい地域づくりをしましょう。

①稲垣悌二・新専務総代・64歳・特になし
②防災訓練は継続していきたい（防災に対する高い意識を持って）。
③地域の人を知り、お互いに和が広がって行く新聞に!!
④各種イベント、説明会に多数の参加をお願いします。第3号での安心安全で暮せる地区を望みます。

①水口浩徳・総代・62歳・魚釣り（船釣り）
②**防災対策**：各組の各戸の人数及び災害時の避難困難者の調査をする。**コミニティ広場**：29年度試験的に評議委員と各種団体で楽しんだグラウンドゴルフ、今年もより一層地域の方が利用したり、参加して頂ける様に新体制で考えていきたい。**各種イベント**：今までの活動状況の話を参考にしながら地域の人の繋がりがより一層深まる様に進めたい。**地域活性について**：この地域に住みたいと思える様、皆が楽しく過ごせる様な雰囲気作りが、居心地の良い環境にする事が、他から人を呼び込むようになるのではないかと思う。
③地域の色々な情報を、地域新聞を通して知る事で、話題のきっかけになり、お互いのコミュニケーションを深め、地域活性の原点になる重要な役割があると思う。
④地域を良くしようと思うと、皆様の事・地域の事を色々知る事が重要だと思います。防災に関しても、しもの時は災害弱者の把握を前もって知っておく必要があります。一戸一戸の人数の確認、自分の力で避難出来ない人の把握も必要です。地域住民の皆様の御協力を宜しくお願いします。

みあきのSAKURA

（文責）原田　浩明

三秋の隠れ桜スポットをご紹介します。

まず1つ目が岡田・北両組境の四つ角（祭りの時のぼりが立つところ）から高速道路方面へ行く途中、高架下のトンネルの手前にある枝垂桜です。

高速道路高架下トンネル手前の枝垂桜

2つ目は、石尾組の大西さん宅前の桜です。大西さんの許可を得て畑の中から撮影しました。すべて、ご自身で植樹して育てた桜だそうです。どちらも見事な桜ですね。

大西さん宅前の桜

みあき図書館

（文責）中藤　真里

ダン・ブラウン（著）
越前敏弥（翻訳）
「ダ・ヴィンチ・コード」

宗教が背景になっており、内容が難しく、正直に言うと私自身、よく理解できずに読んでいました。しかし、ストーリーはフィクションであるが、芸術作品、建築物、文書、秘密儀式に関する記述はすべて事実に基づいているとのことであり、想像しながら読むと現実で起きているように感じ楽しめました。又、サスペンス・ストーリーの謎解きをしていくと、とても気分がスッキリしました。

結果、宗教があまり理解できなくても、とても楽しい作品です。ぜひ読んでみてください。

みあき今昔物語

（文責）西願寺　玉井　敬信

今回は少し趣向を変えまして、新聞記事タイトルの一つである「みあき今昔物語」の3回目のトピックを兼ねさせて頂きます。当該「和尚の小部屋」の2回目のトピックにて、西願寺が1589（天正17）年の創建以来400年以上この地に存在してきたことについて触れましたが、その寺院の樹木に囲まれ、さながら森の中の寺院の様相を呈していて詳細についてはほとんど解っておりません。しかしながら、一昨年の私の住職就任式である「晋山結制式」の際の清掃・整理中に、今から65年前の1953（昭和28）年、祖父が晋山式を行なった当時の白黒写真が3枚出て来ました。今回掲載した写真は、寺院の南側を流れる森川の支流、三秋川周辺から当山を撮影したと想定されるものです。現在、寺院の背後を迂回する国道378号線はまだ形跡すらなく、山号である「大原山」のなだらかな勾配が見て取れます。また、境内は多くの樹木に囲まれ、さながら森の中の寺院の様相を呈しています。400年と比較すると、たかだか65年程度の今昔でしかありませんが、それでも周辺環境の変化がよく見て取れますし、住職はすでに三人目へとバトンタッチしていますが、私の時にはしませんでしたが、祖父の晋山式の記念写真には、「お稚児行列」という着飾った子供達が写っています。写真の子供達は現在70～75才位になられておいでしょうか？写真は当山本堂に常時展示していますので、心当たりのある方は、是非一度見に来て下さい！

2018（平成30）年現在の西願寺

1953（昭和28）年当時の西願寺

今年もやります

（文責）原田　浩明

今年もホタル観賞会の開催を予定しております。昨年と同じ6月上旬頃を予定しております。詳細が決まり次第、地域新聞みあき公式ツイッターにて、お知らせいたします。

@Miaki_news
#みあきイベント

私の絶景 すぺしゃる

つくしと明神山

庭駆ける　子らが見つけし　つくしんぼ
かずゆき

（撮影）谷本　和之

イノシシの檻と女児

迫力に　昂ぶる彼岸の　帰り道
かずゆき

（撮影）谷本　和之

皆さんのお家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景やお祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの○○○　★私の絶景　etc・・・
お近くの当新聞編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。
info.miaki@gmail.com

地域新聞みあきメールアドレスはこちら

編集後記

三秋地区が「平成30年度集落活性化モデル構築事業」の実施（モデル）地区に選定されました。これは、人口を1％取戻すことを目標とした県の集落対策事業で、地域づくり協働体構築事前サポート事業（2月に集会所で行ったワークショップ）の発展版といったところです。今年度から2年間、県・市及びえひめ地域政策研究センターからの支援を受けて、集落活性化に向けた様々な取り組みをしていくことになります。今後の進捗状況については、当新聞にて随時お伝えしていく予定です。（ひろ）

第4回野菜栽培大学開催される

（文責）みあき野菜倶楽部　原田　浩明

生育不良の大根を並べて比較

みんなで意見を出し合って分析

数えて4回目を迎える三秋野菜栽培大学が、1月20日に開催されました。今回は、カボチャ・大根・玉ネギについて、昨年の栽培状況を踏まえた熱い議論がなされました。昨年より良い結果を得ることを目標に、昨年の反省点を洗い出し、その原因について様々な角度から意見を述べ合いました。特に、大根については、実物を置いて見比べながら理解を深めていきました。

みんなで三秋のこと考えてみよう

（文責）原田　浩明

三秋の自慢できるものについて話し合う

2月18日、三秋集会所にて、三秋地区のことを考えるワークショップが開催されました。これは、愛媛県が実施している「地域づくり協働体構築事前サポート事業」の一環で、平たく言うと、過疎化や高齢化等で元気を無くしつつある地域に元気になってもらうようサポートする事業です。この日は、当新聞委員をはじめ、住民約25名が集まり、えひめ地域政策研究センター担当者の進行のもと、「地域の自慢できるもの」や「地域でこれからやってみたいこと」をテーマについて話し合われました。また、ゲストとして、昨年京都より市内郡中へ移住された吉田さんや、愛南町にて地域団体を立ち上げ活動している「まるごと緑」の木村さん、森さんにお越し頂き、移住や地域活動等についてお話頂きました。そして、ワークショップ後には、木村さんが仕留めたイノシシ・シカ肉のバーベキューを味わいながら、和やかにそして熱く地域活動について語り合いました。今回の事を機に、地域間交流の促進や地域活性に対する新たな発想が生まれ、三秋地区全体が元気になればと思います。

研修に行ってきました

（文責）原田　浩明

イノシシ&シカ肉でBBQ

「まるごと緑」の木村さん

○移住フォーラム

2月25日、東温市農村環境改善センターにて、平成29年度東温市移住フォーラムが開催されました。フォーラムは2部構成で、第1部が地域住民と移住者によるパネルディスカッション、第2部は「民泊新法の解説と宿泊サービス開業に向けてのアドバイス」と題しての特別講演で、何れも我が三秋地区が今後の取り組みべき課題に対して大変参考になる内容でした。特に、第1部のパネルディスカッションにおいては、2月18日の三秋地区のことを考えるワークショップにて、ゲストとしてお越し頂いた、吉田さん、木村さん、森さんがパネリストとして参加されており、ワークショップでは聞けなかった『移住』に関する深いお話を聞くことができ、交流が深まりました。

集落活性化シンポジウム（伊方町）

移住フォーラム（東温市）

○集落活性化シンポジウム

2月28日、伊方町生涯学習センターにて、平成29年度集落活性化シンポジウムが開催されました。シンポジウムは3部構成で、第1部が6次産業化についての講演、第2部が地域づくり協働体の構築についての事例紹介、第3部が「地域の活力づくりについて考える」をテーマにしたパネルディスカッション行われました。特に、第3部のパネルディスカッションにおいては、集落活性化に取り組んだ先進地域の事例発表があり、先の移住フォーラムと合わせ、三秋集落の活性化に新聞スタッフとしてどのように関わっていくべきかを大変参考になる内容でした。その中でも、農家などの生産者が作ったものを自ら製品に加工し、販売まで行う6次産業化は、三秋集落として取り組みべき課題だと痛感しました。

第2回明神山登山

（文責）原田　浩明

山頂に立ててあった看板

2年前の平成27年11月、第1回明神山登山（第2号に掲載）を行いましたが、その際、深いヤブでなかなか前に進めず、登頂を諦め途中で断念。そして、その翌年の平成29年12月23日、再度山頂を目指して、新聞スタッフ3名で、第2回明神山登山を実行しました。2回目の今回は、前回とは逆側の犬寄方面から登ることにし、当日中に登頂し下山することを最優先としました。これは、前回の経験を踏まえ、将来三秋からの登山ルートを確かなものにする為の情報収集を主な目的とし、現在の山頂の様子や山頂から三秋方面へ下るルートの様子を確認しました。今回の登山を踏まえて、三秋登山ルートの整備計画を立て、皆さんが登れる登山道を出来るだけ早く開通できるようにしたいと思います。

途中で見つけた野鳥の卵（ムクドリ？）

山頂から尾根伝いに三秋方面へ

こんにちは赤ちゃん

（文責）稲多　早苗

お父さんに抱かれている紘之くん

三秋の岡田組に新しい命が誕生しました。谷本紘之（ひろゆき）君です。平成29年9月20日生まれです。名前には、これから出会うたくさんの方々との繋がりを大切にし、豊かな人生を歩んでほしい。目標を達成してほしいという思いが込められているそうです。何と、お父さん、お母さん共に双子とのこと。珍しいですね。谷本さん夫妻はボランティア活動も盛んに行っています。詳しい内容は今後、ご紹介する予定です。お楽しみに。

入学おめでとう

（文責）稲多　早苗

★小学1年生（写真右から）

藤井彩佳ちゃん…1年生になったら、お友達をいっぱいつくって小学校生活を頑張ります。

川本朱里ちゃん…1年生になったら、跳び箱と勉強をがんばります。

久保大和くん…1年生になったら、勉強を頑張ります。

小学校最後の思い出に

3人並んでハイポーズ！

卒業おめでとう

（文責）稲多　早苗

★小学生（写真右から）

①小学校6年間の思い出②中学校での抱負

河野姫和さん…①修学旅行②友達をたくさん作る。

島田由梨さん…①修学旅行で海響館（水族館）に行ったこと。②合唱部に入って部活を頑張る。

稲多慶次くん…①水泳大会②難しい勉強の内容も理解できるよう頑張る。

川本悠雅くん…①修学旅行②部活でも勉強でもくじけずに頑張る。バスケ部では全国大会に向けて頑張る。

稲多教経くん…①水泳大会の練習が楽しかったこと。②勉強の成績が学年で5位以内になるよう頑張る。

★中学生

①中学校3年間の思い出②これからの抱負

新多凌くん…①修学旅行。皆と色んな場所に行ってとても楽しかった。あまり話さなかった友達とも仲良くなれ良かった。②高校生活で頑張りたいことは部活です。バスケ部に入り、3年間続けたい。一生懸命練習に取り組み活躍できる選手になりたい。

子供たちに安心安全を

（文責）藤田　浩明

豊永橋前の横断歩道（早朝）

早朝7時過ぎ、今日も元気よく学校へ向かう黄色い帽子の一団。民生児童委員の方に誘導されながら、横断歩道を渡る。一見どこにでもある小学生の登校風景の一コマ。だが、彼らが渡るこの横断歩道、実は危険が潜んでいる横断歩道なのだ。場所は、三秋地区からみて、中村交差点手前の豊永橋を渡る直前の急カーブを曲がったところ。特に朝晩は、通勤の車で行き交う台数は比較的多い。取材したこの日も、わずか10分間程で、約20台が通行していた。また、車の速度も比較的出ており、信号機なしでは渡りにくいという印象。

この状況は三秋地区としても看過できないので、地元警察を含め、関係各所に信号機設置を要望しているが、設置に関する法律上の問題等から、現在時点において設置の見通しは立っていない。しかし、子供たちの為にも一日も早い信号機設置が待たれる。

三秋を訪ねて

（文責）吉田　克浩

ソテツの説明を受ける吉田さん（奥）

「綺麗な地名…」私の第一印象です。郡中からR378を双海方面へ向かうと、三秋峠の登りに辿り着く。私が「三秋」の存在を知ったのは、まだ半年前の事。何故なら昨年7月京都市伏見区より郡中に移住してきたから。

今年の2月、急遽三秋地区の集会に参加する事となり、そこで原田さんご夫婦と出会った。地域の皆様が地元のセールスポイントを熱心に議論されている姿に共感を覚え、この地域を自分の眼で見て肌で感じたいと、早速原田さんに案内をお願いしました。

快晴の土曜日、その思いは実現し、集会所を9時半に出発。西願寺→旧三秋信号所跡→端の左衛門の墓と地蔵→銀杏広場→三秋大池→温泉発掘跡→正一位水之大明神社→三秋橋展望所等々を散策。道中、吉岡様宅で豪華なティータイム、大池では原田夫人手作り弁当を堪能し、菜の花や土筆の天婦羅に感動。

三秋橋から伊予市内を望む

皆様は地元をどのように見ておられるのだろう。もしかして「何もない」と誤認してはいないかな…。こちらでは京都を羨むような話ばかりが聞かれるが…。確かに観光地化した場所はないけれど、三秋には各セクションのポイントゲッターが一通り揃っていると思う。今回の散策ルートだけを思い返しても、西願寺には樹齢600年のソテツと600巻の大般若経、信号所跡は目の前を予讃線が通過する撮り鉄の聖地、民間人最古の墓、銀杏広場ではアウトドア、大池なら釣りだけでなくバッサ競技も出来そう、最上位格の神社も現存し、松山道をアートのように映し出す雄大な展望所は愛の聖地にぴったり、付録として温泉発掘失敗の笑いも取れる。これらに加え新鮮な農産物やホタルまで、まだまだありそう…。小説やドラマに出てきそうな素敵な風景「三秋」がここに存在しています。

「右、左、右。」よし！

（文責）原田　真子

実際の横断歩道で実践

学校の運動場で練習

4月18日、澄み渡った青空の下、北山崎小学校で伊予署・交通安全協会の指導で、交通安全教室が行われました。最初に、全校児童が参加して、『車は急に止まれない』という事をパトカーを使った制動実験で確かめました。続いて、新1年生だけで、横断歩道の渡り方を運動場にて練習後、公道に出て実際の横断歩道を渡りました。皆さん、信号が青になっても左右の確認を忘れずに。